



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第
7号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第7号). 泌尿器科紀要 1958, 4(7): 418-418

ISSUE DATE:

1958-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111625>

RIGHT:

編集後記

前月号の本欄に「夏の男性の服装」に就て記したが、その後この事に関連のある二つの事柄を見聞した。その一つは「サンデー毎日」の7月6日号に服装研究家の長沢節氏が「軽い男性の夏姿」と題して主張を述べてられる。その要旨は、近頃の若い男性は背広という制服にとらわれなくなっている。暑い時には背広を脱ぐことが第一である。上を軽くしたらズボンも軽くするのが当然で、ズボンが背広のままであるのはおかしい、しかし南国風のショーツは街着としてはまだ行きすぎであるから、あまり短くせず、長くてもくるぶしが見える程度にする。もう一つ、靴も夏向きのサンダルの如きものにする。

以上の服装の点は後記子の書いた事と全く一致している。衛生学者でなくても服装研究の専門家と同じ意見であつたことは愉快であり、自説に自信も持った。



もう一つの事は、7月11日の朝のラジオの話で、汗の研究では第一人者である著名な某生理学者が、アナウンサーの間に答えて、暑くて汗の出る時にネクタイで首をしめていることは生理衛生的にもよくない。開襟シャツがよい。そう思いながら世間の風習から、自分もネクタイをしめていると言われた。これを聞きながら正直なところ後記子は一寸失望した。と言うのは先生のお考えが後記子の思っていることと違っているからである。このような先生こそ生理衛生的な立場から、先頭に立つて堂々と開襟シャツを主張し、実行して頂きたい。そういう運動のリーダーになつて頂きたいと思うわけである。



健康保険の根本及び今回の甲乙二表に就ては多くの問題があるが、日本医師会雑誌7月1日号に載っている橋本厚相の言葉に就ても考えねばならぬ。厚相は、大学で指針以外のことを行うのは文部省の問題で、これを保険の枠で賄うのは不合理であると。成程一応はそう考えられるが、更に深く考えると、大学の臨床研究は結局は国民医療のためになり、従つて健保の向上と結びつのであるから、厚生省は知らぬ顔をせずに、進んで研究費を負担すべきであると考える。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. J. Urol., 45：527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部